

～山田賞～



藤川 達也

略 歴

昭和49年2月12日生
平成10年3月 岡山大学医学部卒業
平成18年6月 岡山大学大学院医学研究科修了
平成18年7月 岡山大学医学部客員研究員
平成18年8月 ハーバード医科大学附属ベスイスラエルデーコネス病
院医学科内分泌学教室リサーチフェロー
現在に至る

研究論文内容要旨

異常プロトロンビン（DCP）陽性の肝細胞癌は、予後不良であることが知られているが、その分子生物学的機構については、これまで知られていなかった。当該研究者らは既に、DCPがautocrine機構により肝細胞癌の細胞増殖を刺激することで、腫瘍の進展に寄与することを報告している。一方、肝細胞癌は、極めて強い血管新生を引き起こす特徴を持っているが、本研究では、DCPのparacrine機構による血管新生亢進作用に関して検討を行った。

ヒト臍帯静脈内皮細胞（HUVEC）を用いた検討においてDCPは、HUVECの細胞増殖能及び細胞移動能を濃度依存的に亢進させた。また、HUVECの細胞増殖能、細胞移動能亢進を司るシグナル伝達経路は、血管内皮増殖因子受容体VEGFR2の自己リン酸化に引き続き誘導されるPLC γ -MAPK系であった。DCP生産性肝細胞癌では、DCPを介するautocrine機構に加えてparacrine機構による血管新生亢進作用が肝細胞癌進展に寄与している可能性が高いことが示唆された。